

石油燃焼機器の過去の事故一覧 ③石油ファンヒーター

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
1	株トヨトミ	2006/12/22	石油ファンヒーター	LC-L533E	---	当日、XXさんが自宅の洋間で急に立てなくなり、嘔吐を繰り返したため、奥さんが救急車を呼び病院へ、4～5時間ほど酸素マスクと点滴を行い当日帰宅する。	不明	LCR-3の報道もあり、XXさんの娘さんよりCO中毒ではないかと問合せがあり、その時使用していた製品の調査依頼があったため、製品をXXさんより預かり燃焼時の排ガス測定及び、異常燃焼の有無を確認するも正常範囲内で異常が認められない。その為、正常である旨、書面で説明し、治療診断書の入手をお願いし、その提出を待つて再度調査の予定。			○	1981年4月～2006年12月	
2	三菱電機株	2006/4/24	石油ファンヒーター	KD-SX52B	④	住宅2階建て約120㎡を全焼する火災が発生し、事故現場にファンヒーターがあった。	不明	消防・県警科捜研見解：原因不明 出火元特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
3	株トヨトミ	2006/3/1	石油ファンヒーター	LC-L533	---	18年1月初旬頃本体より異音が発生し振動を感じたが正常に作動。18年1月末頃、異音が発生し振動を感じたが正常に作動。18年3月1日モーターのベアリングの油切れした様な音がしたが正常に作動。18年3月1日朝タイマで運転。昼間通常の運転に作動させる共に正常に運転する。運転SWを入れてまもなくすると白煙が部屋(台所8畳)に充満し、隣部屋の孫を外に連れ出す。3名 のど痛と頭痛	不明	燃焼用空気取入口のフィルターの目詰まり、温風空気取入口のフィルター内側、内部のファン、ファンモーターにかなりの埃が付着していた。この状態燃焼したところ、最小燃焼時にE-6で停止した。燃焼用空気不足によって起こるものであり、燃焼用空気量が正常品と比べて30%程度少なくなっていた。燃焼用空気と気化した灯油が混合して点火ヒータで着火するが、燃焼用空気取入口のフィルター詰まりにより燃焼用空気不足となり、着火できずに白煙が出たと思われる。		○		1981年4月～2006年12月	
4	松下電器産業株	2006/2/26	石油ファンヒーター	OH-G33R	該当せず	火災現場に商品があった	不明	家人が酒に酔い、商品を蹴飛ばし倒した			○	1987年1月～2006年12月	
5	株コロナ	2006/2/9	石油ファンヒーター	FH-B62Y	④	木造2階建て集合住宅の一室から出火し、約20平方メートルを半焼した。	不明	消防の調査では石油ストーブからの出火とみているが、焼損が著しい為原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
6	松下電器産業株	2006/2/6 (情報入手日)	石油ファンヒーター	OH-D33	該当せず	火災現場に商品があった	不明	問い合わせのみ			○	1987年1月～2006年12月	
7	三菱電機株	2006/1/17	石油ファンヒーター	KD-32H4	②	ファンヒーター前方のヘアスプレー缶が破裂し、他社サービスマンが両手甲部分・顔面に3度の火傷を負った。	不明	消防局・警察見解：ファンヒーターの前にスプレー缶が置かれていて、スプレー缶が爆発			○	1978年10月～2006年12月	
8	日立アプライアンス株	2005/12/26	石油ファンヒーター	OVF-320BX	一本体 焼損	石油ファンヒーターから立炎し、消火器、水掛けにより消火。製品外への延焼なし。火傷等の2次被害無し。	20年	何らかの原因でバーナ内に灯油が溜まった状態で運転させたため、過大燃焼した。			○	1985年10月～2007年1月	リコール製品
9	三菱電機株	2005/12/4	石油ファンヒーター	KD-232X	④	前面から煙、背面から火が出た。	不明	消防見解：部品の誤使用 カートリッジタンク受皿に他社製受皿が取り付けられていた。油面が異常上昇して漏油した。			○	1978年10月～2006年12月	
10	株長府製作所	2005/12/2	石油ファンヒーター	FH-5202	④	住宅全焼	不明	情報があつた時点で現品の所在が不明で調査不能のため原因不明 (ガソリンを誤使用したためと推定)			○	～2006年12月	
11	松下電器産業株	2005/11/21	石油ファンヒーター	OS-F2811	④	家屋全焼	不明	点火ボタンのレバー固定			○	1987年1月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
12	ダイニチ工業(株)	2005/10/31	石油ファンヒーター	FW-5270E	①	木造2階建て住宅から出火して160平方メートルを全焼し、家人が死亡した。	約2年11月	消防の調査では、石油ファンヒーターに農機具用ガソリンを灯油と間違えて給油したため、異常燃焼を起こし、出火したものとみている。		○		1997年4月～2006年12月	
13	ダイニチ工業(株)	2005/6/28	石油ファンヒーター	FW-3050S	④	洗濯物の焼損、室内の洗濯物と壁や天井が煤けた。	不明	焼損状況より、灯油漏れ等の異常は確認できず、本体内部から出火したのではなく、操作部周辺にあった製品以外の可燃物が燃焼したものと推察される。			○	1997年4月～2006年12月	
14	ダイニチ工業(株)	2005/4/25	石油ファンヒーター	FW-3280S	④	1階6畳居間の石油ファンヒーター付近から出火、木造2階建て住宅約150平方メートルを全焼、隣接している住宅4棟を全半焼した。	不明	住宅の焼損状況等より、石油ファンヒーター付近からの出火とみられ、石油ファンヒーターには電気溶接等を施した痕跡があり、修理、改造等の外部要因による出火の可能性もあるが、石油ファンヒーター燃焼経路等には異常はみられず、原因の特定はできなかった。			○	1997年4月～2006年12月	
15	シャープ(株)	2005/4/17	石油ファンヒーター	OK-M32X	④	火災	4年	給油タンクのキャップ締め忘れ(消防調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
16	日立アプライアンス(株)	2005/4/3	石油ファンヒーター	OVF-SH33D	④	石油ファンヒーター吹出口から30cm位の炎が吹き出し、消火器で鎮火した。消火器による台所、和室の汚損。	2～3年	消防立会調査では原因不明。(独)製品評価技術基盤機構では、何らかの可燃性液体が器体にかかり、温風吹出口より発火した可能性が高く、製品本体に発火要因はない。			○	1963年8月～2007年1月	
17	ダイニチ工業(株)	2005/3/8	石油ファンヒーター	FW-3280S	④	石油ファンヒーターの周辺の畳(タンク側の下、半径30～40cm)、天井の照明焼損。	約1年2月	消防署は電源コード自体にショートの様子が残っていることから、発火の原因はショートとの見解。			○	1997年4月～2006年12月	
18	三菱電機(株)	2005/2/13	石油ファンヒーター	KD-258V	④	住宅2階部分約40㎡を焼損。	不明	消防見解：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
19	(株)コロナ	2005/1/30	石油ファンヒーター	FH-322DXD	④	木造2階建て住宅から出火、約60平方メートルを全焼した。	約15年	消防の調査では、長年、点検をしなかったため、気化筒である燃料室内にタールが推積し、タールのためにヒーター熱が遮断されて、灯油が十分に気化されずに燃焼室内に溜まり、異常燃焼を起こし、出火したものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
20	(株)長府製作所	2004/11/23	石油ファンヒーター	FH-3502	④	家屋全焼	不明	現品返却なく調査不能のため原因不明			○	～2006年12月	
21	日立アプライアンス(株)	2004/4/7	石油ファンヒーター	OVF-L32A	④	一部二階建て木造住宅をほぼ全焼	1ヶ月	電話を取ろうとして急いだ為、ファンヒーターを転倒させた。この時タールが飛び出し、製品から出火はしていないが、飛び出した給油タール周りに炎が見えたとの証言あるも不明。			○	1963年8月～2007年1月	
22	ダイニチ工業(株)	2004/3/24 (情報入手日)	石油ファンヒーター	FL-201	④	家人留守に火災発生。製品の周りが最も強く焼損していた。3階フロア全体に煤付着。	不明	消防署の調査結果より、製品の異常は認められないこと、可燃物を製品上に置いたことが挙げられている。			○	1997年4月～2006年12月	
23	ダイニチ工業(株)	2004/3/8 (情報入手日)	石油ファンヒーター	FA-335	④	製品本体と周辺の床、壁の焼損。	不明	消防より、給油時に製品の運転を停止せず、タンクの口金の締め付けが悪かったため本体に灯油をかけてしまい火災になったと連絡があった。			○	1997年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
24	(株)コロナ	2004/2/26	石油ファンヒーター	GT-2570Y	④	事務所から出火し、建物を焼損した。事務所には、石油ファンヒーターがあった。	不明	出火時、石油ファンヒーターは運転状態であったものと考えられるが、バーナ部及び燃焼筒にすすの付着はなく、過熱防止装置は約80℃で作動するため、本体から発火した可能性は低く、外火により、カートリッジタンクの油量計が破損し、流失した灯油が本体内で燃焼したものと推定される。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
25	ダイニチ工業(株)	2004/2/18 (情報入手日)	石油ファンヒーター	FW-2580S	④	石油ファンヒーターの周りのカーペット・座布団が焦げた。	不明	消防より、焦げている部分に灯油臭がするとのこと、おそらくこぼした灯油に何らかの原因で引火したと思われるとのこと。			○	1997年4月～2006年12月	
26	日立アプライアンス(株)	2003/3/27	石油ファンヒーター	OVF-9301	④	木造2階建の1階部分約30m ² 焼損	不明	ファンヒーターの前にビニールパイプを置いてこたつ内に温風を送るように手作り。2～3年の使用で炭化し、発火・火災に至ったものと推定。			○	1963年8月～2007年1月	
27	日立アプライアンス(株)	2003/3/26	石油ファンヒーター	OVF-L26	④	石油ファンヒーターより出火。床約0.5m ² を焼損。	不明	給油時に何らかの誤使用が行われ発火したものと推定される。			○	1963年8月～2007年1月	
28	三洋電機(株)	2003/2/24	石油ファンヒーター	OFH-Z268	④	木造2階建て住宅と倉庫230m ² 全焼。	不明	給油時に給油ノックを落とし、口金が壊れて灯油が漏れている状態で本体にセットしたため、天板・本体に灯油がこぼれ、点火時に引火して火災に至った不注意と推定。			○	1986年1月～2006年12月	
29	日立アプライアンス(株)	2003/2/19	石油ファンヒーター	OFH-C300	④	木造瓦葺モルタル塗装平屋建、一部二階建て住宅1棟4住宅の北側から出火し、169m ² 全焼。	不明	調査結果により火災の原因はファンヒーターではない(消防署見解)	-	-	-	1963年8月～2007年1月	
30	ダイニチ工業(株)	2003/2/18	石油ファンヒーター	FA-264	④	石油ファンヒーターに給油し、点火したところ突然燃え広がって、木造2階建て住宅を全焼した。	不明	事故品には、灯油漏れ等の異常は確認できず、被害者が誤ってガソリンを給油した可能性もあるが、カートリッジタンク等には残っていなかったため成分分析ができず、原因の特定はできなかった。			○	1997年4月～2006年12月	
31	(株)コロナ	2003/2/4	石油ファンヒーター	不明	④	木造平屋住宅から出火し、同住宅約161平方メートルを全焼した。	約10年	消防の調査では、消火していない石油ストーブと石油ファンヒーターの2台分まとめてカートリッジタンクに給油後、火のついた石油ストーブに石油ファンヒーターのカートリッジタンクのハンドルがぶつかっただけで、衝撃でワントッチ式のふたがはずれ、漏れた灯油が火のついた燃焼筒にかかり、火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
32	三洋電機(株)	2003/1/12	石油ファンヒーター	CFH-CA30	④	木造平屋建て住宅33m ² 全焼。1名火傷(軽症)	不明	消防調査では、カーリッジノックを受け皿にセットする場合の誤操作による油面のオーバーフロー、及びノックを落下したことで灯油の飛び散り、温風吹き出し口で引火した使用者の不注意と推定。			○	1986年1月～2006年12月	
33	ダイニチ工業(株)	2002/12/26 (情報入手日)	石油ファンヒーター	FW-3060S	②	ボンという音とともに石油ファンヒーター右部背面より炎、8階建て県営住宅2階の住居全焼と3、4階部分も延焼。家人が火傷で入院。	不明	消防の要請で資料提出。事故品の調査では、発火につながる油漏れ、ガス漏れ等の異常は認められなかった。			○	1997年4月～2006年12月	
34	(株)コロナ	2002/12/1	石油ファンヒーター	NH-3280Y	④	石油ファンヒーターを使用していたところ火が突然噴き出し、布団をかぶせて消火しようとしたが、ファンヒーターの周囲1.88平方メートルを焼いた。	不明	消防の調査では、石油ファンヒーターに誤ってガソリンを給油したために異常燃焼を起し、火災に至ったものとみている。なお、何故ガソリンを保有していたかは不明である。			○	1995年4月～2006年12月	
35	ダイニチ工業(株)	2002/11/30	石油ファンヒーター	FW-4020S	④	木造2階建て住宅から出火、約198平方メートルを全焼した。	約4年	消防の調査ではファンヒーターの吹き出し口の前の床の焼けが特に著しいこと等から、ファンヒーターが事故発生に関与しているとみているが、原因については特定できなかった。			○	1997年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
36	シャープ(株)	2002/3/13	石油ファンヒーター	OK-2510	④	畳1枚とテレビ焼損	8年	給油タンクのキャップ締め忘れ (消防、警察調査結果)		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
37	三菱電機(株)	2002/2/25	石油ファンヒーター	KD-KX323	④	いきなり「ボン」という音がして発火。 消火器にて消火するも、ふすま、エアコン等焼損。	4年	消防見解:ファンヒーターの前にスプレー缶が置かれていて、スプレー缶が爆発		○		1978年10月～2006年12月	
38	三菱電機(株)	2002/2/12	石油ファンヒーター	KD-D382	③	運転中に4名が気分が悪くなり、救急車/自転車で病院に行き、診察・治療を受けた。診察結果は軽い一酸化炭素中毒で2日後には退院していた。	約4年	警察・消防見解:修理ミス 製品分解後の再組立で、製品内部の板金が組戻されず、製品内部に取残され、風洞出口を塞ぎ異常燃焼。(第3者機関測定結果)	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
39	ダイニチ工業(株)	2002/1/28	石油ファンヒーター	FA-3301	④	木造2階建てアパートの2階部屋から出火、火元の部屋約25平方メートルを全焼し、隣接する同階の3室の屋根を焼いた。	不明	消防の調査では、被害者がガソリンを灯油と間違えて石油ファンヒーター(カートリッジタンク)に給油したため、異常燃焼を起こし、火災に至ったものとみている。なお、ガソリンは被害者が屋外照明のための発電器用に、所有していたものである。		○		1997年4月～2006年12月	
40	三洋電機(株)	2002/1/7	石油ファンヒーター	OFH-Z268	①	木造2階建て住宅157m2全焼。	不明	給油口口金の不完全な締め付けにより灯油が漏れ、給油ノックを取り出した際に口金が外れ灯油がストープにかかり引火。		○		1986年1月～2006年12月	
41	三菱電機(株)	2001/12/30	石油ファンヒーター	KD-D32A	④	学習塾の教室・給湯室の壁・天井等約95㎡を焼いた。塾経営者が手に火傷を負った。	不明	警察見解:ガソリン誤使用		○		1978年10月～2006年12月	
42	ダイニチ工業(株)	2001/12/10	石油ファンヒーター	FW-3050S	④	給油し、タンクをセットしたところ火災が発生。	約11ヶ月	現場でタンクと口金についてはおらず、消防署は給油中の不注意と処理した模様			○	1997年4月～2006年12月	
43	ダイニチ工業(株)	2001/5/29 (情報入手日)	石油ファンヒーター	FW-3040S	④	出炎し家屋へ延焼。	不明	給油時タンクのキャップが外れ、燃焼中の石油ファンヒーターに灯油をかけてしまった。警察は放火の可能性も推測。			○	1997年4月～2006年12月	
44	(株)コロナ	2001/3/4	石油ファンヒーター	FH-A37Y	④	木造2階建て住宅から出火、1階台所付近の障子戸2枚を焼き、家人が顔などに火傷を負った。	不明	消防の調査では、石油ファンヒーターのカートリッジタンクに給油する際、灯油入りポリタンクの横にあったバイク燃料用のガソリン入りポリタンクから給油し、床にこぼしたため、近くにあった石油ストープの火に引火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
45	ダイニチ工業(株)	2001/2/8 (情報入手日)	石油ファンヒーター	PH253	④	灯油を製品にかけてしまい出火。	不明	油フィルターのピンが折れているため、口金の高さを調整する意図で、いつも口金を緩めにしていて、消火から約3分後、タンクを製品にセットする際口金が外れ、灯油を製品にかけてしまった。消防は灯油をかけてしまったことに起因するものと認識している。		○		1997年4月～2006年12月	
46	三洋電機(株)	2001/2/2	石油ファンヒーター	OFH-Z268	④	木造2階建て店舗兼住宅320m2全焼。	不明	給油時、誤ってカートリッジノックを床に落とした際に口金が外れて灯油が機器にかかり引火。		○		1986年1月～2006年12月	
47	シャープ(株)	2001/1/7	石油ファンヒーター	OK-239	④	キャンピングカー全焼	12年	器具の近傍にあったカセットコンロ用のガスボンベが器具の温風で爆発した		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	

注1: 事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2: 被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
48	ダイニチ工業(株)	2000/12/28	石油ファンヒーター	不明	④	石油ファンヒーターが原因と思われる火災発生。	不明	消防ではガソリンをタンクに入れた形跡を確認している。消防よりガソリンを燃料として使用した場合の資料提出依頼があった。			○	1997年4月～2006年12月	
49	ダイニチ工業(株)	2000/12/23	石油ファンヒーター	KF-K3020S もしくは KF-K3030S	④	朝方、石油ファンヒーターに給油し点火したところ、石油臭がしたのでカードリッジタンクを取り出してふた部分を締め直し、その後30分間使用して外出した。外出から帰り、石油ファンヒーターを点火した後、「ポッ」という音が発生し、石油ファンヒーター底面内部に炎が見えその後燃え上がった。	約4月	石油ファンヒーターの油受皿内に赤みのかかった油が残っており、ガソリン臭がしたことから、給油の際誤ってガソリンを給油したために、カードリッジタンク内のガソリンが気層の体積膨張によって油受皿に大量に押し出され、油受皿からあふれ出した燃料に点火時の火花が引火し出火したものと推定される。なお、家業が修理工場であったため、経営者がポリタンクに保管していたガソリンを従業員が灯油と思いこみ給油したものである。			○	1997年4月～2006年12月	
50	シャープ(株)	2000/12/22	石油ファンヒーター	OK-250EKH	④	ボヤ火災(床、壁、天井の一部焼損)	2年1月	給油タンクのキャップ締め忘れ (消防・警察調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
51	ダイニチ工業(株)	2000/12/20	石油ファンヒーター	FI-30GSY	④	石油ファンヒーターが炎をふいて床をこがした	不明	販売店の依頼により事故品を調査。発火につながる油漏れ、ガス漏れ、電気的ショート等は認められなかった旨を販売店、消防署へ報告。			○	1997年4月～2006年12月	
52	ダイニチ工業(株)	2000/12/4	石油ファンヒーター	FW-3040S	④	灯油を給油し使用したところ、ルーバーより火炎がふきだしカーペットに引火。	不明	消防署の依頼により残油を調査し、臭い、成分分析よりガソリンを多量に含む灯油と判断した。その結果を報告した。			○	1997年4月～2006年12月	
53	(株)コロナ	2000/11/30	石油ファンヒーター	FH-2570Y	④	木造2階建て住居兼店舗から出火し、2階部分の寝室4部屋が燃え、1階部分の台所等が消火の際に水で濡れた。	約6年	消防の調査では、被害者が石油ファンヒーターの上方に、プラスチック製ハンガーを用いて乾燥させていた洗濯物が温風吹出口の近くに落下し、火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
54	三菱電機(株)	2000/11/29	石油ファンヒーター	KD-25BT	④	木造2階建て住宅の2階部分約90㎡を焼いた。逃げる際に被害者宅のご主人が腰に軽症。ご息がのどに軽い火傷を負った	21年	消防見解：ガソリン誤使用			○	1978年10月～2006年12月	
55	三菱電機(株)	2000/10/31	石油ファンヒーター	KD-SX324	②	ファンヒーターを使用中に親が目を離した際に長女(小学生)が温風吹出口(ルーバー)に接触して腕に3度の火傷を負った。	約1年	原因：使用者の不注意			○	1978年10月～2006年12月	
56	三菱電機(株)	2000/10/23	石油ファンヒーター	KD-25HTX	④	事故品の下に敷いていたビニールシート、カーペットを焦がした。	約5ヶ月	消防見解：不適切な改造 カートリッジタンク受皿のピンが改造(丸棒がボルトに交換)されていたため、灯油が燃焼部近傍部まであふれ、点火により炎が出た。			製品起因でない	1978年10月～2006年12月	
57	ダイニチ工業(株)	2000/10/13	石油ファンヒーター	FW-2501系	①	3棟全焼 1名焼死	不明	焼け跡から口金が外れたタンクと本体が分離していたことから、給油時口金が緩んだタンクを本体に挿入しようとしたところ口金が外れ本体に灯油がかかり、何らかの原因で発火したのではと消防で推測している。			○	1997年4月～2006年12月	
58	ダイニチ工業(株)	2000/3/28	石油ファンヒーター	FW-4020S	②	鉄筋プレハブ2階建ての2階部分焼失。家人が火傷して通院。	約2ヶ月	運転ボタンを押したところ2、3秒後に爆発。給油タンク上フタ付近より灯油が飛散したため、付近に引火。消防の依頼により、発生状況からの事故の要因(引火性の高い揮発性物質の混入)や同様な事故例の報告した。			○	1997年4月～2006年12月	
59	日立アプライアンス(株)	2000/2/27	石油ファンヒーター	OVF-SE32D	④	2階8畳間でファンヒーターを使用中に出火。1㎡未満の床面焼損となった。	不明	消防との立会い検証。ファンヒーター周辺の可燃物が何らかの原因で燃え、ストーブへの類焼に繋がったと見ている。使用者証言では、ストーブから火が出ていたか周辺が燃えていたかは不明。			○	1963年8月～2007年1月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
60	シャープ(株)	2000/1/21	石油ファンヒーター	OK-G30X	④	器具下部のゴザの一部を焼損	4年	給油タンクのキャップ締めずキャップをタンクに乗せたまま、器具にセットした為、灯油が本体に掛かったと推定		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
61	三洋電機(株)	2000/1/7	石油ファンヒーター	CFH-A8	④	ファンヒーターの前方可燃物から出火の疑い。半焼火災。	不明	吹出し口がふとんで半分くらい塞がれていたため、温風温度が上がり、出火したものと推定する。			○	1986年1月～2006年12月	
62	三菱電機(株)	2000/1/5	石油ファンヒーター	KD-H725	①	3階建民家全焼 ご主人死亡。	5年	消防・科捜研見解：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
63	三洋電機(株)	1999/12/11	石油ファンヒーター	CFH-A306	④	プレハブ住宅46m2全焼。	不明	製品評価技術センターからの情報では原因不明。			○	1986年1月～2006年12月	
64	日立アプライアンス(株)	1999/11/2	石油ファンヒーター	OVF-307	④	ファンヒーター前面より白煙、炎があり、前方約50cmにあったアルバムに燃え移り、木造、平屋、貸家が全焼。	1年	消防では、温風ファンフィルターの掃除をしていなかったことから、埃が溜まり、炎が吹き出たと見ている。		○	○	1963年8月～2007年1月	
65	ダイニチ工業(株)	1999/5/7 (情報入手日)	石油ファンヒーター	FA-517	④	着火させたら本体より出火。被害について詳細不明。	不明	消防は油受皿内の残油にガソリン成分を確認		○		1997年4月～2006年12月	
66	三菱電機(株)	1999/4/21	石油ファンヒーター	KD-E309	③	夜ファンヒーターのSWを切って就寝。翌朝5:30頃家族3人気分が悪くなり救急車にて入院。酸素濃度が30%と酸欠状態であった。白アリノ薬を奥様が散布している。	5年	多量の白アリ駆除剤を散布後、ファンヒーターを運転したことでCOが急激に発生した。 白アリ駆除剤メーカー、第三者機関、当社にて検証した。		○		1978年10月～2006年12月	
67	ダイニチ工業(株)	1999/3/31	石油ファンヒーター	FW-4010S	④	給油後、ポツという音がして、本体裏スポット差込穴から炎がでていた。量1枚延焼	9日	燃料タンクに残っていた残油の臭いからガソリンの可能性大である。		○		1997年4月～2006年12月	
68	三菱電機(株)	1999/3/18	石油ファンヒーター	KD-232X	④	2階建て住宅にて火災。 ご主人が両足に火傷する。	11年	消防見解：ファンヒーターが原因と断定できず。 外部から灯油が本体にかかったと推定。		製品起因でない		1978年10月～2006年12月	
69	三菱電機(株)	1999/3/1	石油ファンヒーター	KD-323DL	④	本体焼損	10年	消防見解：原因不明			○	1978年10月～2006年12月	
70	松下電器産業(株)	1999/2/4	石油ファンヒーター	OH-30E	④	家屋半焼。	不明	電源コード半断線のまま使用		○		1987年1月～2006年12月	
71	ダイニチ工業(株)	1999/1/31	石油ファンヒーター	FA-336	④	石油ファンヒーターの電源コードに足をひっかけ転倒させる。その際カートリッジタンクが飛び出しさらに家人が誤って口金を外し、倒れた本体に灯油がかかり出火。住宅を全焼。	不明	消防の依頼により本体の構造図、対震自動消火装置の構造図、本体温度分布を報告。消防署は感震器の不作動、急停止時における各部品の高温化による出火と推測。			○	1997年4月～2006年12月	
72	三菱電機(株)	1998/12/18	石油ファンヒーター	KD-336DS	④	建屋半壊以上	不明	警察見解：ファンヒーターが原因ではない。		製品起因でない		1978年10月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
73	㈱トヨタミ	1998/12/14	石油ファンヒーター	LCR-3	①	リゾートマンションの一室で所有者夫婦が死亡しているのを発見された。	不明	警察の調査では石油ファンヒーターの燃焼用空気を取り入れ口にある給気フィルターがほこりによる目詰まりのため不完全燃焼となりCO中毒を生じたものとみている。(給気フィルターのほこりによる目詰まりのため不完全燃焼)		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
74	三菱電機㈱	1998/5/8	石油ファンヒーター	KD-E359	④	建屋全焼	不明	消防見解：ファンヒーターが原因ではない。	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
75	松下電器産業㈱	1998/4/1	石油ファンヒーター	OH-305	④	家屋全焼。	1989～1999	誤使用：ガソリン使用		○		1987年1月～2006年12月	
76	三菱電機㈱	1998/2/23	石油ファンヒーター	KD-32HTS	④	建屋全焼 人身事故	不明	消防見解：ファンヒーターが原因ではない。	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
77	ダイニチ工業㈱	1998/2/14	石油ファンヒーター	PH227K	④	夜帰宅して石油ファンヒーターのスイッチを入れ、その後風呂のスイッチを入れるため風呂場へ行ったところ、子供が「ファンヒーターから火が出ている。」と叫んだ。居間に戻ってみるとファンヒーターの台座と本体の間から煙が出ていた。温風の吹き出し口をのぞくと、炎が見えたので水をかけて消火したが、本体及び床の一部を焼損した。	約9年	本体内部の電源コードの一部に短絡痕が認められたこと及び本体内部にかなりの埃が堆積し底板部の埃に灯油がしみ込んでいたことから、コードの短絡による発火、燃焼室バーナー等からの炎が埃に引火した可能性等が考えられるが、原因の特定はできなかった。		○		1997年4月～2006年12月	
78	㈱トヨタミ	1998/1/29	石油ファンヒーター	LCR-3	②	新聞報道によると2階の寝室で就寝中の長女XXさんが倒れているのを家人が発見し、病院に運ばれたが意識不明の重体。同室にあったストーブの不完全燃焼で一酸化炭素中毒にかかったとみられる。XXさんは前夜、勉強などで夜遅くまで起きていてストーブをつけたままであったとのこと。	不明	北海道警察釧路方面本部鑑識課科学捜査研究所にて調査中。(吸気フィルターがほこりによる目詰まりのため不完全燃焼)		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
79	㈱トヨタミ	1998/1/23	石油ファンヒーター	LCR-3	①	1月23日午後2:25分頃 XXさんの部屋の窓から煙が漏れているのを同アパートの住人が見つけ119番通報した。救急隊員が駆けつけたところ被害者がストーブのそばに倒れており、既に死亡していた。	不明	燃焼用空気を取り入れ口にある給気フィルターのほこりの目詰まりによる不完全燃焼と警察は断定している。(給気フィルターがほこりによる目詰まりのため不完全燃焼)		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
80	三菱電機㈱	1998/1/9	石油ファンヒーター	KHF-25P	④	全焼 人身事故	不明	消防見解：原因不明。 消防と立会試験も実施した結果、原因特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
81	ダイニチ工業㈱	1998/1/7	石油ファンヒーター	PH337	②	木造2階建て住宅から出火、約170平方メートルを全焼し、家人が火傷をして入院した。	約10年	消防の調査では、石油ストーブに給油する際、カートリッジタンクのふたをはずして持ったまま転倒した。そのときこぼれた灯油がストーブにかかったが、十分にふき取らずに点火したため、引火したものとみている。		○		1997年4月～2006年12月	
82	三菱電機㈱	1998/1/6	石油ファンヒーター	KD-258V	④	家屋焼損	不明	消防・警察情報：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
83	三菱電機㈱	1997/12/26	石油ファンヒーター	KD-32FTD	④	建屋1階焼損	不明	消防見解：原因不明。 現品調査結果は、ファンヒーターが原因ではない。	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
84	㈱コロナ	1997/11/18	石油ファンヒーター	GH-1710A	④	飲食店から出火、木造2階建て店舗兼住宅のうち、1階店舗の調理場及び客間約150平方メートルを焼いた。	約3年	消防の調査では、従業員が石油ストーブの火をつけたまま電動給油ポンプを用い給油し放置していたため、給油ポンプのホースロが外れ、ストーブの燃焼筒に入り、引火したものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
85	シャープ(株)	1997/4/10	石油ファンヒーター	OK-A30A	④	家屋全焼	7年	当社調査結果、器具からの発火要因は見られないことを説明し、消防署了解			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
86	ダイニチ工業(株)	1997/4/5	石油ファンヒーター	FA-517F	④	焼損	不明	消防の依頼により事故品を調査。燃焼室内部は煤の付着が少なく、前パネ裏面は吹出口周辺に多量の煤の付着が認められ、それ以外は少ないことより、外部からの侵入によると考えられる旨を報告。			○	1997年4月～2006年12月	
87	三洋電機(株)	1997/3/23	石油ファンヒーター	CFH-H25A	④	消防より資料請求：周囲焼損	約2年	通産省、製品評価技術センターの事故商品確認結果報告書から、機器内から発火した可能性は少ない、と推定される。				1986年1月～2006年12月	もらい火の可能性
88	日立アプライアンス(株)	1997/3/12	石油ファンヒーター	OVF-J26W	④	2階寝室より出火、鉄骨2階建て住宅を全焼	5年	本体内に多量の紙が入られていたことに気づかず、運転して離れたため、紙に着火し本体から延焼した。			○	1963年8月～2007年1月	
89	三菱電機(株)	1997/2/17	石油ファンヒーター	KD-25ETD	④	建屋半焼以上	15年	消防・警察情報：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
90	(株)トヨトミ	1997/1/31	石油ファンヒーター	KB-15E	④	火災 全焼 本体にダンボールが倒れていた。消防からの照会で、試験依頼の為、事故に関する情報は得られず。	不明	取扱説明書、温度データ送付。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
91	三菱電機(株)	1997/1/27	石油ファンヒーター	KD-H301	④	建屋2階焼損	2ヶ月	消防見解：原因不明			○	1978年10月～2006年12月	
92	三洋電機(株)	1997/1/12	石油ファンヒーター	CFH-P22J	④	2階建てアパートの1階48m2焼損	不明	廃棄物の拾得、修理によるもの。			○	1986年1月～2006年12月	
93	(株)コロナ	1996/12/26	石油ファンヒーター	FH-252DXD	④	石油ファンヒーターに点火し3～5分後、温風の出るのを確認して別の部屋に居たところ、「パチパチ」という音がするので見に行ったら、ファンヒーターが真っ赤になって燃え上がっていた。消火しようとファンヒーターを倒して布団を被せたが、これに燃え移り、住宅約180平方メートルを全焼した。また、子供が逃げる際に顔に軽いけがをした。	不明	警察の調査では、事故品の焼損が著しいため、原因を特定できなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
94	三洋電機(株)	1996/12/6	石油ファンヒーター	CFH-A254	①	火災により幼児2名が焼死。	不明	現物は調査のため、消防・警察が持ち帰り。調査結果は不明。			○	1986年1月～2006年12月	
95	日立アプライアンス(株)	1996/11/21	石油ファンヒーター	OVF-L30D	④	30店舗テナント内の一店舗内でボヤ発生。売場約20坪がスス煙で使用不能。	不明	消防、警察の調査では石油ファンヒーター以外に発火源がないため、石油ファンヒーターが火元と判断。原因は不明。			○	1963年8月～2007年1月	
96	三菱電機(株)	1996/11/18	石油ファンヒーター	KD-403DL	④	木造2階建て住宅ほぼ全焼。	9年	消防・警察情報：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
97	三菱電機(株)	1996/2/13	石油ファンヒーター	KD-D250	③	ファンヒーターを2～3時間使用後、消火して就寝したところ、夜半に吐き気・頭痛などがひどくなった。救急病院で一酸化炭素中毒の症状がでていると診断され、治療を受けた。	1日	警察見解：一酸化炭素の発生は、ファンヒーターではない。 製品は排ガスを含め正常。灯油の分析結果も正常。 通産省製品評価技術センターでの排ガス測定も正常で製品異常みられず。	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
98	シャープ(株)	1996/2/11	石油ファンヒーター	OK-E25C	④	事務所内火災	1年	給油タンクのキャップ締め忘れ (消防調査結果)		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
99	三菱電機(株)	1996/1/29	石油ファンヒーター	KD-245V	④	火災	6年	消防局見解：ガソリン誤使用		○		1978年10月～2006年12月	
100	三菱電機(株)	1995/12/29	石油ファンヒーター	KD-232R	①	火災 布団衣類、部屋の内壁等が焦げた。 一酸化炭素中毒3名死亡。	8年	警察・消防見解：ファンヒーター近傍の洗濯物が発火しファンヒーターの一部が焼損した。(ファンヒーター内部に燃えた形跡が無い)。 県科捜研見解：一酸化炭素の発生は火災によるもので、ファンヒーターからの発生ではない。	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
101	三菱電機(株)	1995/12/13	石油ファンヒーター	KD-B33D	④	本体焼損	5年	消防見解：原因不明			○	1978年10月～2006年12月	
102	日立アプライアンス(株)	1995/12/2	石油ファンヒーター	OVF-230E	④	就寝中に出火し、全焼。	不明	ファンヒーターの温風吹出口の前(20cm程度)に敷いた布団が温風の熱により加熱されて燃え、出火したと判断される。(消防署見解)		○		1963年8月～2007年1月	
103	三菱電機(株)	1995/2/13	石油ファンヒーター	KD-257V	④	建屋全焼	不明	消防・警察見解：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
104	三洋電機(株)	1994/12/28	石油ファンヒーター	CFH-R231E	④	使用中に温風吹出し口から発火し、畳が焦げた。	約9年	ヒーターレールが溶着し、連続通電となりバーナーホーダーの一部が溶け、それがリード線に接触し、被覆が焼損。安全装置はOFFし、通電は停止していた。				1986年1月～2006年12月	部品故障
105	三洋電機(株)	1994/12/6	石油ファンヒーター	CFH-252	④	4歳の子供が使用中、火災になり、中2階が全焼。	不明	相手側弁護士が保管。調査結果は不明。			○	1986年1月～2006年12月	
106	三菱電機(株)	1994/12/3	石油ファンヒーター	KD-32DTD	④	建屋全焼	12年	消防・警察見解：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○	1978年10月～2006年12月	
107	三洋電機(株)	1994/11/13	石油ファンヒーター	CFH-252	④	燃焼中に給油しようとして、タンクを抜いた時に、キャップが外れて灯油が機器にこぼれ、火災になった。	不明	タンクキャップの締込み不備。		○		1986年1月～2006年12月	
108	シャープ(株)	1994/11/5	石油ファンヒーター	OK-2688	④	家屋4棟全焼	6年	ガソリン誤給油と推定			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考	
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中			
109	三菱電機株	1994/4/17	石油ファンヒーター	KD-323D	④	漏れた灯油に引火	不明	消防見解：点火した状態でカートリッジタンクに給油し、口金を充分締めずに本体に入れたため、灯油漏れによる引火		○		1978年10月～2006年12月		
110	日立アプライアンス株	1994/3/28	石油ファンヒーター	OVF-370D	④	炎が出て、敷物床(20×30cm)焦げ。	不明	燃焼部に異常は認められず、原因は不明。			○		1963年8月～2007年1月	
111	三菱電機株	1994/1/6	石油ファンヒーター	KD-275V	④	建屋全焼 消防署からの問い合わせのみ	不明	消防からの問合せのみで詳細不明。			○		1978年10月～2006年12月	
112	松下電器産業株	1993/12/11	石油ファンヒーター	OH-270	①	CO中毒(2名死亡、2名重体)	1988～1993	原因不明			○		1987年1月～2006年12月	
113	三菱電機株	1993/4/14	石油ファンヒーター	KD-25CT	④	建屋半焼未満	不明	科捜研見解：ガソリン誤使用		○			1978年10月～2006年12月	
114	三菱電機株	1993/1/22	石油ファンヒーター	KD-405DL	②	ファンヒーターの前方に置いたスキー用リックスプレー缶が爆発し、全治4週間の火傷を負った。	約2年2ヶ月	警察見解：ファンヒーターの前にスプレー缶が置かれていて、スプレー缶が爆発		○			1978年10月～2006年12月	
115	三菱電機株	1992/3/23	石油ファンヒーター	KD-25BT	④	建屋半焼未満	不明	消防見解：ガソリン誤使用		○			1978年10月～2006年12月	
116	三菱電機株	1992/1/31	石油ファンヒーター	KD-32BT	④	建屋半焼未満	不明	消防見解：ガソリン等の誤使用		○			1978年10月～2006年12月	
117	株トヨタミ	1991/12/8	石油ファンヒーター	LCR-3A	①	8帖居間(洋間)にて使用、CO中毒にいたる。事故前日は、親戚に不幸があり妻共々手伝いに出掛けたので大変疲れ、当日はお互いに休養していた時の出来事であり、前後のことはよく分からない、との助かったご主人の説明であった。 1名死亡 1名重症	不明	青森県警科学捜査研究所の原因についての見解「フレムロッド、バーナーミス、バリュミット、対震等は正常に作動している。フィルター閉塞率を90%以上にすると急にCOの発生が多くなり閉塞が少ないと酸素が19%でもCOの発生は少ない。換気不良とか本体異常ではなくフィルターのごみが原因であり使用ミス」		○			1981年4月～2006年12月	
118	三菱電機株	1991/2/25	石油ファンヒーター	KD-273D	④	建屋全焼	不明	消防・警察見解：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○		1978年10月～2006年12月	
119	三菱電機株	1991/2/25	石油ファンヒーター	KD-245V	④	建屋全焼	不明	消防・警察見解：原因不明 ファンヒーターが出火元とは特定できず。			○		1978年10月～2006年12月	
120	三菱電機株	1991/2/12	石油ファンヒーター	KD-30HTC	④	建屋全焼	5年	消防・県警察見解：原因不明 但し、ファンヒーターのSWはオフであり、燃えた痕跡がない事が確認された。		製品起因でない			1978年10月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの） 10

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
121	三菱電機(株)	1991/2/7	石油ファンヒーター	KD-M245V	④	部屋と階上の計60㎡を全焼した。顔に火傷と気管障害を負った。	3ヶ月	警察・消防見解：ガソリン誤使用		○		1978年10月～2006年12月	
122	三菱電機(株)	1991/1/21	石油ファンヒーター	KD-324D	④	建屋焼損	不明	消防見解：不審火の疑い有り ファンヒーター以外の可能性大。	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
123	三菱電機(株)	1991/1/17	石油ファンヒーター	KD-252X	④	ファンヒーターを点火したところ、約30分後に「ポーン」という音と共にファンヒーターから火が噴き出し、燃え広がり木造2階建ての住宅一棟約80㎡を全焼。女性が両ふくらはぎを火傷。	3年2ヶ月	消防署見解：ファンヒーターの前にスプレー缶が置かれていて、スプレー缶が爆発		○		1978年10月～2006年12月	
124	三菱電機(株)	1990/12/12	石油ファンヒーター	KD-323D	①	建屋全焼 2名死亡	2年	科捜研試験結果：ファンヒーターが原因とは考えにくい。	製品起因でない			1978年10月～2006年12月	
125	(株)トヨタミ	1990/2/28	石油ファンヒーター	LCB-23D	---	ファンヒーターの孔に被害者の手の指が入り込んだため、指を抜き戻す時に切傷した。1名 通院(7日間)	不明	石油ファンヒーターのファンヒーターの孔に被害者の手の指が入り込んだため		○		1981年4月～2006年12月	
126	三洋電機(株)	1989/12/3	石油ファンヒーター	CFH-AR10C(W)	④	全焼火災	約2ヶ月	科捜研では焼損が激しく、ファンヒーターが原因かどうかは不明、との事。				1986年1月～2006年12月	火元不明
127	三洋電機(株)	1989/11/28	石油ファンヒーター	CFH-U331J	④	ファンヒーターを点けたまま、留守にし、その間に火災となり、家屋全焼。	約4年	機器の損傷が激しく、また、使用状況も不明のため、原因推定は不可。			○	1986年1月～2006年12月	
128	(株)トヨタミ	1989/2/28	石油ファンヒーター	LCR-3A	③	当日、深夜帰宅し、12時ごろ点火、息子さん仮眠、父親が朝方4時ごろ起こしに行き、部屋中油煙が充満している状態で発見。そのまま入院となる。1名CO中毒入院	不明	空気フィルターの目詰まりにより異常燃焼し、かつ密閉状態で燃焼した為、燃焼筒や触媒がスズで目詰まりし室内にスズ発生やCOが発生した。		○		1981年4月～2006年12月	
129	三洋電機(株)	1989/2/4	石油ファンヒーター	CFH-U331J	③	一酸化炭素中毒により2名入院。全治2週間の診断。	約3年	密閉度の良い部屋で長時間使用したことが原因と推定される。			○	1986年1月～2006年12月	
130	日立アプライアンス(株)	1988/10/16	石油ファンヒーター	OVF-320BX	④	石油ファンヒーター付近から出火し、木造2階建て(165m ²)1棟を全焼。	不明	警察で調査するも原因不明			○	1985年10月～2007年1月	リコール製品
131	日立アプライアンス(株)	1987/12/18	石油ファンヒーター	OVF-320BX	一 本体 焼損	スムーズに点火しなかった。そのうち突然点火し、赤火になって温風吹き出し口より、一瞬、火が出たため、消火器で消火。	2年	製品を移動させる際、機体を大きく傾けたため、油受け皿の灯油がこぼれ、気化器保温パッキンに染み込んだ。燃焼時に引火。	○	○		1985年10月～2007年1月	リコール製品
132	日立アプライアンス(株)	1987/12/15	石油ファンヒーター	OVF-320BX	一 本体 焼損	点火しないとのことで、(販)で点火テストを数回繰り返したところ、送風ファン部より発煙。コンセントを抜き、水で消火。	不明	製品を移動させる際、機体を大きく傾けたため、油受け皿の灯油がこぼれ、気化器保温パッキンに染み込んだ。燃焼時に引火。	○			1985年10月～2007年1月	リコール製品
133	日立アプライアンス(株)	1987/12/10	石油ファンヒーター	OVF-320BX	一 本体 焼損	点火しないとのことで、(販)で点火テストを数回繰り返したところ、本体から火が立ち上がった。店主が表へ持ち出し消火。	1年	製品を移動させる際、機体を大きく傾けたため、油受け皿の灯油がこぼれ、気化器保温パッキンに染み込んだ。燃焼時に引火。	○			1985年10月～2007年1月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 11

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
134	日立アプライアンス(株)	1987/11/30	石油ファンヒーター	OVF-320BX	ー 本体 焼損	点火後しばらくして、本体内部から発火したため、土間へ出して水で消火。	2年	製品を移動させる際、機体を大きく傾けたため、油受け皿の灯油がこぼれ、気化器保温パッキンに染み込んだ。燃焼時に引火。	○			1985年10月～2007年1月	リコール製品
135	(株)トヨトミ	1987/11/12	石油ファンヒーター	LCR-3B	③	11月7日点火時煙が出て着火。指定店にて修理し、ヒーター・フィルターを交換。11月9日使用してすぐ、ビニールの焼ける臭いがしたがそのまま使用。事故当日PM11:30ブレーカが落ち、フィルター部より火が吹き出しストーブが焼損。1名CO中毒で通院	不明	過去にサービス指定店が修理した際に、送油アタッチメントと送油管を接続しているフアットのセッ状態が悪く不完全であったため、送油アタッチメントの山が破損し、ここから油漏れを起こし、数日間の使用により下部燃焼筒壁面を伝わり高温部ヒーターにより着火し、出炎したものと思われる。	○ *1			1981年4月～2006年12月	*1 サービス不具合によるもの
136	シャープ(株)	1987/3/7	石油ファンヒーター	KF-321AR	①	一酸化炭素中毒による1名死亡	5年	警察の調査結果、器具の不調を知らず使用されており、器具の構造的な欠陥は無かったとのこと		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
137	三洋電機(株)	1987/1/31	石油ファンヒーター	KHF-30E	①	6畳の部屋で男性1名が死亡。	不明	6畳の部屋での長時間使用による酸欠死と推定。			○	1986年1月～2006年12月	
138	(株)トヨトミ	1987/1/28	石油ファンヒーター	LCR-3	③	1/28自宅で母親がLCR-3形を使用したまま寝た状態で発見され、救急車で病院に運ばれた。	不明	事故原因は不明			○	1981年4月～2006年12月	リコール製品
139	三洋電機(株)	1987/1/22	石油ファンヒーター	CFH-250L	③	朝7時頃、気分が悪くなり、一家5人が病院へ運び込まれた。症状は軽く、その日のうちに帰宅した。	約7年1ヶ月	当該機の密閉室試験におけるCO濃度は問題にならない数値であり、原因は不明。			○	1986年1月～2006年12月	
140	日立アプライアンス(株)	1986/12/29	石油ファンヒーター	OVF-320BX	ー 本体 焼損	基板交換修理品を試運転したら、気化器保温パッキン部から出火した。屋外に出して消火した。	1年	製品を移動させる際、機体を大きく傾けたため、油受け皿の灯油がこぼれ、気化器保温パッキンに染み込んだ。燃焼時に引火。	○			1985年10月～2007年1月	リコール製品
141	(株)トヨトミ	1986/12/28	石油ファンヒーター	VS-3000B	③	12月28日PM6時(点火後2～3時間)次男が2Fで使用時に気分が悪くなり、階段で倒れた。病院で一酸化炭素中毒といわれた。1名CO中毒で入院	不明	通常状態では正常燃焼した。排ガス分析の結果も正常であり、通常状態では一酸化炭素中毒を起すとは考えにくく、密閉状態で使用したと思われる。		○		1981年4月～2006年12月	
142	三洋電機(株)	1986/12/7	石油ファンヒーター	CFH-R231E	④	スイッチをONして約1時間後、異臭に気づいて室内を覗くと炎が上がっていた。	約2年	焼け焦げており、現物確認できず。			○	1986年1月～2006年12月	
143	三菱電機(株)	1986/11/26	石油ファンヒーター	KD-32CT	④	木造2階建(延べ165㎡を全焼、隣家木造平屋建(100㎡)を半焼	約4年	県警科学捜査研見解：ガソリン誤使用		○		1978年10月～2006年12月	
144	(株)トヨトミ	1986/3/25	石油ファンヒーター	LS-3-1	③	3月25日未明、守衛室の仮眠室にて1.5～2時間の仮眠をとっていた。午前7時ごろ交替の人が意識不明の本人を発見、病院へ。中毒ではないかと思ひ申し出た。	不明	排ガス中のCO濃度は特に異常なく、送風経路のホリ付着、仮眠による換気不十分等の要因によるものと推定。		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
145	(株)トヨトミ	1986/2/2	石油ファンヒーター	LCR-3	①	2/1午後11:00頃点火。そのまま寝た。次の日の朝8時頃大家の奥さんが部屋の状態がおかしいと気が付き行ってみたらストーブがポツポツと音がして部屋が黒くなっていて本人が倒れていた。ストーブはまだ燃えていた。一酸化炭素による中毒死(警察検視の結果)	不明	6畳間で換気口や窓を目張りして使用したための酸欠によるとの警察のご判断であります。(換気口や窓を目張りして使用したための酸欠)		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「ー」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 12

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
146	㈱トヨタミ	1986/1/30	石油ファンヒーター	LCR-3	③	昼頃にストーブに点火して、4.5畳の部屋の上下の2段階で2名が寝ていた。PM4時頃食事のため下段の人が起きたら上段の人がぐったりしているのが救急車を呼んだ。原因はごみ詰りでストーブの手入れは悪くフィルターは紛失していた。	不明	原因はごみ詰まりでストーブの手入れは悪くフィルターは紛失していた。(ごみ詰まり)	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
147	㈱トヨタミ	1986/1/30	石油ファンヒーター	LCR-3	③	1/29PM9:00頃点火ししばらく寝込んだ。AM1時頃非常に寒さを感じ電気毛布を強にして寝る。この時階下TVに行く為起き上がろうとしたが、体の自由が利かず大変苦労した。翌朝父親が息子がおきてこない為起こしに行ったら部屋は吐いたもので汚くなっており、本人がふらふらになっていた。すぐ病院へ行く。	不明	エアフィルターの目詰まりによる異常燃焼と推測される。	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
148	㈱トヨタミ	1986/1/22	石油ファンヒーター	LCR-3	③	1/22朝7:00頃本人寝ていたが母親がLCR-3点火操作。その後異常を感じて部屋に入ったら真っ黒で長女がぐたつとして意識ない様子。あわててストーブ消して窓を開け、救急車で病院へ運んだ。	不明	換気口のない8畳の部屋で締め切って使用したことによる換気不良とフィルター等のゴミ詰まりとの複合が原因と思われる。(フィルター等のゴミ詰まりと、部屋で締め切って使用したことによる換気不良との複合)	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
149	㈱トヨタミ	1986/1/22	石油ファンヒーター	LCR-3	③	1月22日、PM9:30分着火、1時間30分過ぎたら頭痛がひどくなりフラフラになり、隣の妻を起こした。妻は真っ青であった。すぐストーブを消してドアを開けて、ガスが2Fに出したら、2Fで勉強している高校生が倒れた。3人共寝込んでしまい夫会社休み 妻寝込む 高校生休み 部屋中発生	不明	黄炎が立ちのぼる異常燃焼で使用していたものと思われる。ダンパー内壁面にほこりの付着が多くみられ、風量調節弁は若干絞り気味(約1.5回転内側セット)であった。実機の内部は糸やほこりが堆積していた。主原因には至らず。	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
150	㈱トヨタミ	1986/1/11	石油ファンヒーター	LCR-3	①	13:40ころXXさんが死んでいるのを同僚が発見。一酸化炭素による中毒死(警察検視の結果)	不明	空気取入口をダンボールの箱で塞いでおり、空気不足になったこと、及び鉄筋コンクリートのアパートで建物の気密性もよく、換気不十分も事故の1原因と推定されます。(空気取入口をダンボールの箱で塞いでおり、空気不足)	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
151	㈱トヨタミ	1986/1/7	石油ファンヒーター	LCR-3	③	PM8時頃点火。PM10:00頃意識不明で救急車で病院入院。ストーブは黒煙で炎筒が黒くなっていた。翌朝軽い酸欠症状として退院。現在異常なし	不明	空気不足による異常燃焼。	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
152	㈱トヨタミ	1986/1/3	石油ファンヒーター	LCR-3	③	AM3時頃帰宅し、ストーブに点火。AM6時半頃息苦しくなり目を覚ます。部屋が煙で真っ黒になっており、起き上がろうとするが体動かず、救急連絡。別の部屋で奥様がCO中毒になる。1月6日主人退院。奥様入院中。	不明	現品を回収して調査した結果、スガが出る異常状態は再現した。手入れ状態は悪く、フィルターや内部の送風経路にもゴミ詰りがあり、吸気不足による発生と推定。(フィルターや内部の送風経路にもごみ詰り)	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
153	三洋電機㈱	1985/12/26	石油ファンヒーター	CFH-S221F	①	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：3名、内1名死亡	1年4ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため			1984年9月～2006年12月	リコール製品	
154	松下電器産業㈱	1985/12/25	石油ファンヒーター	OS-F3211	①	家屋全焼(2名死亡)	不明	誤使用・安全装置不動作固定(割り箸でカバーロック)	○		1987年1月～2006年12月		
155	三洋電機㈱	1985/12/20	石油ファンヒーター	CFH-S221F	①	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：3名、内1名死亡	1年4ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため			1984年9月～2006年12月	リコール製品	
156	㈱トヨタミ	1985/12/19	石油ファンヒーター	LCR-3	①	午後6時30分頃着火、同7時頃友人一人帰りその後同8時頃友人一人帰りその後は1人で使用。同11時30分頃友人が訪問、発見した。一酸化炭素による中毒死(警察検視の結果)	不明	使用場所は被害者の自宅個室(60年8月改築完成の独立棟10畳間)は天井総ガス張り、窓2所、出入口1ヶ所共アルミサッシであり、且つ当日は窓が凍りつく気象状況で密閉度は高い状態の中で①換気不足②空気フィルターの掃除不良③当日18時30分頃から連続使用した上、眠ってしまったことによる不幸な事故と推測されます。(閉めきった部屋で点火したまま就寝)	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品	
157	三洋電機㈱	1985/12/17	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：2名	1年4ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため			1984年9月～2006年12月	リコール製品	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 13

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
158	三洋電機株	1985/12/16	石油ファンヒーター	CFH-S221F	①	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：1名死亡	1年4ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
159	三洋電機株	1985/12/15	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：3名	1年4ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
160	三洋電機株	1985/12/11	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：3名	1年4ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
161	三洋電機株	1985/12/9	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：1名	1年4ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
162	株トヨタミ	1985/12/3	石油ファンヒーター	LCR-3	③	S57年購入、2年使用。S59年調子悪い為使用せず。S60年使用に際し、11月30日XXXXXXより出張修理。清掃点検済であったが、当日朝点火2時間後気分悪くなり、動くけなくなる。10時30分主人帰宅により発見し消火。	不明	原因不明			○	1981年4月～2006年12月	リコール製品
163	三洋電機株	1985/11/21	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：2名	1年3ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
164	三洋電機株	1985/11/20	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：4名	約11ヶ月	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
165	三洋電機株	1985/11/20	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：3名	約11ヶ月	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
166	三洋電機株	1985/11/16	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：1名	1年3ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
167	株トヨタミ	1985/11/8	石油ファンヒーター	LCR-3	③	11月8日AM0時着火、小燃焼1時間30分後頭が痛くなり、呼吸困難となり妹に電話する。妹と女性1人が二階の窓から入ったが、女性2人も気分が悪くなり、歩くのが困難になった。男性は良くなったが、女性2人は少し頭が痛い。	不明	送風経路内、特に風量調節器の「ノット」(組)の「ガン」部体のネジによる閉塞が進み燃焼用空気が極端に不足した為。			○	1981年4月～2006年12月	リコール製品
168	三洋電機株	1985/3/20	石油ファンヒーター	CFH-S221F	①	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：3名、内1名死亡	7ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
169	三洋電機株	1985/3/12	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：3名	7ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
170	株トヨタミ	1985/3/7	石油ファンヒーター	LCR-3	③	3時頃気分悪くなり、立とうとしたが動けず救急車にて入院。その後同事務室で今度は男子事務員が気分悪くなりストップが原因でないかとXXXXXに申し入れ。	不明	手入れ不良による燃焼不良と換気不良の複合。(手入れ不良による燃焼不良と換気不良の複合。)			○	1981年4月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 14

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
171	(株)トヨタ	1985/2/20	石油ファンヒーター	LCR-3	③	2月20日、10畳居間で具合が悪くなり、救急車で運び一日で正常になった。2月27日に客と部屋で酒を飲んでいるとき全員具合悪くなり、以来ストップ使用していない。(レノコックも使っていた)	不明	大雪で寒く締め切っていた。練炭こたつも使用していた。相乗効果によるCO中毒。		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
172	三洋電機(株)	1985/2/13	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：1名	6ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
173	三洋電機(株)	1985/1/31	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：2名	5ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
174	三洋電機(株)	1985/1/31	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：1名	5ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
175	三洋電機(株)	1985/1/28	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：5名	5ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
176	三洋電機(株)	1985/1/16	石油ファンヒーター	CFH-S221F	③	燃焼二次空気取入口に埃がつまり一酸化炭素中毒：1名	5ヶ月未満	燃焼二次空気取入口が埃のたまり易い構造であったため				1984年9月～2006年12月	リコール製品
177	(株)トヨタ	1985/1/4	石油ファンヒーター	LCR-3	③	午前11時頃点火コックに入り家族3人でうたたね。午後3時頃子供(X才とX才位のXXX)2人と奥さんが頭痛を訴え、主人(XXXX)が職務上CO中毒と気づき換気して大事に至らず。	不明	送風経路内(特にダンパー組立部分)に糸、ほこり等による閉塞があり燃焼用空気が極端に不足していたことによる異常燃焼と部屋の換気を4時間くらいしなかった為。		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
178	(株)トヨタ	1984/12/27	石油ファンヒーター	LCR-3	①	一酸化炭素中毒(S60.12製品交換状況について東京消防庁予防課の問い合わせにより説明に出頭した際に小金井市において女性1名の死亡事故があったことを報告される。資料等は見せていただいたがコック、メ等は不可とのことで詳細不明)	不明	気密性の良いマンションのせまい部屋(4畳?)で使用したことから室内の酸素濃度が低下し、不完全燃焼を起しCO中毒になったものと推定。東京消防庁の調べでは風邪で寝ていたらしいとのこと。 (狭い部屋で使用したことから、室内の酸素濃度が低下し、不完全燃焼)		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
179	(株)トヨタ	1984/12/27	石油ファンヒーター	LCR-3	③	コンクリート造りの2階のマンションでの事故で前日PM8時頃点火、翌日AM11時頃、一家4名がこん睡状態になっているのを訪ねてきた同僚が見つけた。発見時燃焼していたか否かは不明。	不明	事故状況を裏付ける程の異常は見当らず原因不明。ただしヒートエレメント等の部品には著しいすす附着があるにも拘らず、フィルタにはすす附着が認められず、空気取入口が塞がれていた可能性あり。(原因不明)			○	1981年4月～2006年12月	リコール製品
180	(株)トヨタ	1984/12/23	石油ファンヒーター	LCR-3	③	数日前から少しすすが出ていたことに気付いていたが、販売店への連絡を忘れていた。事件当日夕食時にビールを夫婦で飲んだらテレビを見ているうちに二人共眠ってしまった。息苦しくなって気がつき、ドアを開けて119番へ通報したら気を失ってしまった。	不明	燃焼に必要な空気を調節して送り込む風量調節弁の不具合により燃焼ガスと風量(空気)のバランスが不均衡になり炎筒組立内で黄炎が立ち上がり油煙が発生したと推定。		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
181	(株)トヨタ	1984/12/18	石油ファンヒーター	LS-3-1	③	当日朝、LS-3-1点火弱火燃焼。当時社長、担当員の2名が事務所におり、社長は頭痛を感じ、風邪と思い2階の居間に行く途中動作が鈍くなり居間で倒れる。外出中の会長が帰社、事務所内の臭いと若干の煙で窓を開け、ストップを消火し、担当者に話しかけるも、返答にならず、担当者は事務所入口ドア前付近で倒れていた。昨年12月に購入使用後何ヶ月もたたぬうちに異常音(高い音)が出る為、今日まで弱燃焼で使用していた。	不明	現品は返却時点で送風経路が掃除されていたために確認試験時再現せず。フィルタの目詰まりと思われる。		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 15

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
182	株トヨトミ	1984/12/18	石油ファンヒーター	LCR-3	③	午後8:00頃奥さんが気分悪くなったと台所に行った。何か変なので見たら流台にぶら下がるような格好で半ば意識がなかった。その後主人も頭がふらつきやっとの思いで電話をかけ初めてストーブを見た。炎の状態が大きくなったり小さくなったりしていたので初めてガス中毒と感じ戸を開けベランダに奥さんを引きずり出した。そこで二人とも倒れていた。午後9:00少し前実家の車で病院に運ばれ、緊急センターに移された。奥さんも1時間ほど意識が戻ったがそのまま二人とも入院	不明	事故当日、非常に寒い日で窓が凍りついた状態であり、また、炊事時間と重なり瞬間湯沸器とガスコンロを併用していた。ストーブの炎の状態から酸欠と思われる。	○			1981年4月～2006年12月	リコール製品
183	株トヨトミ	1984/11/26	石油ファンヒーター	LS-3	③	S58年11月購入後、昨年使用中は特に異常なし今年10月下旬より使用開始笛吹音発生し購入先に修理依頼するも的確に連絡されず11月26当社受付11月27日訪問し確認した所社員の入院が判明した。	不明	フィルターノズル部にカバコの火で溶かしたと思われる穴があることから、ほこりが内部に多量に入り込んだ。また、50Hz地区向け商品を使用していた。	○			1981年4月～2006年12月	リコール製品
184	株富士通ベネラル	1984/6/8	石油ファンヒーター	KHF-33G	④	ファンホク焼損	不明	誤ってガソリンを給油した	○			1984年5月～2007年1月	
185	株富士通ベネラル	1984/5/23	石油ファンヒーター	KHF-33G	④	ファンホク焼損	不明	誤ってガソリンを給油した	○			1984年5月～2007年1月	
186	株トヨトミ	1984/3/14	石油ファンヒーター	LCR-3	③	ストーブに赤火が混り、ガラス炎筒がすすで黒くなっていることは以前から気付いていたが、特に異常と思わず。事故当日の朝食時に夫婦共に具合が悪くなり、おかしいと気付いてストーブを消火し、子供を呼んで救急車を呼ばせた。	不明	送風経路中のパッキンが欠品しているという組立ミスがありフィルタのゴミ詰まりと重なってスが発生したと推定。	○	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
187	株トヨトミ	1984/3/2	石油ファンヒーター	LCR-3	③	朝6時頃 息苦しくなって気が付き、壁、ふすまをたたいて階下の人に知らせた。	不明	ヘルツリングが逆組立されていたため、フィルタの目詰りの原因となって油煙が発生したと推定。逆組立では使用者のミスと思われる。(ヘルツリングが逆組立されていたため、フィルタの目詰まりが原因となって油煙が発生)	○			1981年4月～2006年12月	リコール製品
188	株トヨトミ	1984/2/20	石油ファンヒーター	LCR-3	③	着火後定期的な換気はしていたが次第に酸素不足の為に頭痛がおき換気を行う為、8畳間の出入り口を開けたとたん気を失い病院に運ばれた。	不明	キャリブ破損があり燃焼中に破損したかは不明であるが換気不足によるCO中毒と思われる。	○			1981年4月～2006年12月	リコール製品
189	株トヨトミ	1984/2/5	石油ファンヒーター	LCR-3	③	2月4日夜、酒を飲んで帰室(XXXXXX、6畳)、翌5日の朝、同僚が起こしに行き被害者がふとんの中でぐったりしているのを発見。現品を回収して調査した結果、立炎状態が再現し、油煙事故であると推定した。	不明	現品は風量調節に異常があり、手を加えられた跡がみとめられたが、誰が手を加えたかは判明せず。この異常とフィルタのゴミ詰まりが重なってスが発生が生じたと推定。(風量調節の異常とフィルタのゴミ詰まり)	○			1981年4月～2006年12月	リコール製品
190	株トヨトミ	1984/1/30	石油ファンヒーター	LCR-3	③	通常居間で使用しているストーブを、使用被害者が自分の部屋に移動(初めて)使用后30分で具合が悪くなり、消火したとたん黒煙が出てそれを吸い込み倒れた。4畳の勉強部屋での事故。	不明	調査担当は酸欠が原因と報告。現品を回収して調査した結果、スが出る異常状態が再現し、酸欠が原因とはいえないことが判明。送風用ゴミホースの組み立てに異常が認められ、フィルタのゴミ詰まりと重なってスが発生したと推定。(送風機のゴミホースの組み立てに異常が認められ、フィルタのゴミ詰まりと重なってスが発生。)	○	○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
191	株トヨトミ	1984/1/12	石油ファンヒーター	LS-3	③	8時20分ごろ点火後店を開店し開店中はずっと使用し午後5時位に店主主人が気分悪くなり倒れ救急車で病院に行き治療を受け1時間位休み家に帰宅、2日位薬を飲み解消	不明	風量調節弁が再調整された後があった。エアフィルタ及び風量調節弁にほこりが付着して燃焼不良となり一酸化炭素が大量に発生したのと思われる。	○			1981年4月～2006年12月	リコール製品
192	株トヨトミ	1983/12/20	石油ファンヒーター	LCR-3	③	子供X歳X歳の2人が午後4時ごろ帰宅、奥さんは用事があり出かけて留守。午後8時ごろご主人いつもより早く帰宅。子供2人頭が痛いと言ってグッカリしておった。	不明	埃がストーブ内に堆積。風量調整弁が絞られていた。また、ダンパーパッキンが外れていた。	○			1981年4月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 16

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
193	(株)トヨトミ	1983/12/4	石油ファンヒーター	LS-3	③	朝10時ごろ1階で点火、弱燃焼で使用、午後から強燃焼にした。2階で夫婦とX歳の子供がいたが子供が吐き気と頭痛がすること1階へ見に行き倒れてしまった。1階のストーブを見ると油煙を出しながら燃えていた。あわててコンセントを抜いた為大事は至らなかった。3日前より少し黄炎を出し燃焼頭痛もしたとの事。	不明	風量調整弁が再調整されたあとがあった。また、ヒーター内部にハードカーボン、フレアロッド側の保炎リングにソフトカーボン付着し、炎に偏りが発生。触媒がつまり閉塞状態になったと思われる。		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品
194	(株)トヨトミ	1983/10/25	石油ファンヒーター	LCR-3	①	旅館にて使用中、3名がCO中毒で死亡。一酸化炭素による中毒死(警察検視の結果)	不明	使用場所は標高約2500Mの山荘の客室で空気の薄い場所で①換気不十分②眠ってしまった事による事故と推定される。警察の再現テストでは、酸欠が原因であることは確認済。(空気の薄い場所での換気不十分)		○		1981年4月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 17